

10 これからの宇美町

(1) 宇美町のシンボル



宇美町の町章

● 宇美町の町章

宇美町の町章は、カタカナのウとミを組み合わせて鳥の翼を描いたものです。背面の色は、自然を表す緑です。豊かな自然と歴史や伝統を大切にしながら、文化都市として飛躍・発展していく宇美町を表しています。

● 宇美町の花と木 (町制施行65周年を記念して制定)

■ 宇美町の花 (ツクシシャクナゲ)

ツツジ科の常緑低木で、直立するものは高さ3m、直径15cmほどになります。三郡山系に多く自生し、耐寒性が強く筑紫路に咲く花としてひときわ美しくかれんで、薄桃色の花は人々の心をなごませてくれます。



■ 宇美町の木 (くすの木)

クスノキ科の常緑高木で、材は堅く香気があります。宇美町の象徴ともいえる宇美八幡宮の神木でもあり、樹齢2,000年を経た湯蓋の森、衣掛の森で知られる大樟は、国・県の天然記念物に指定されています。

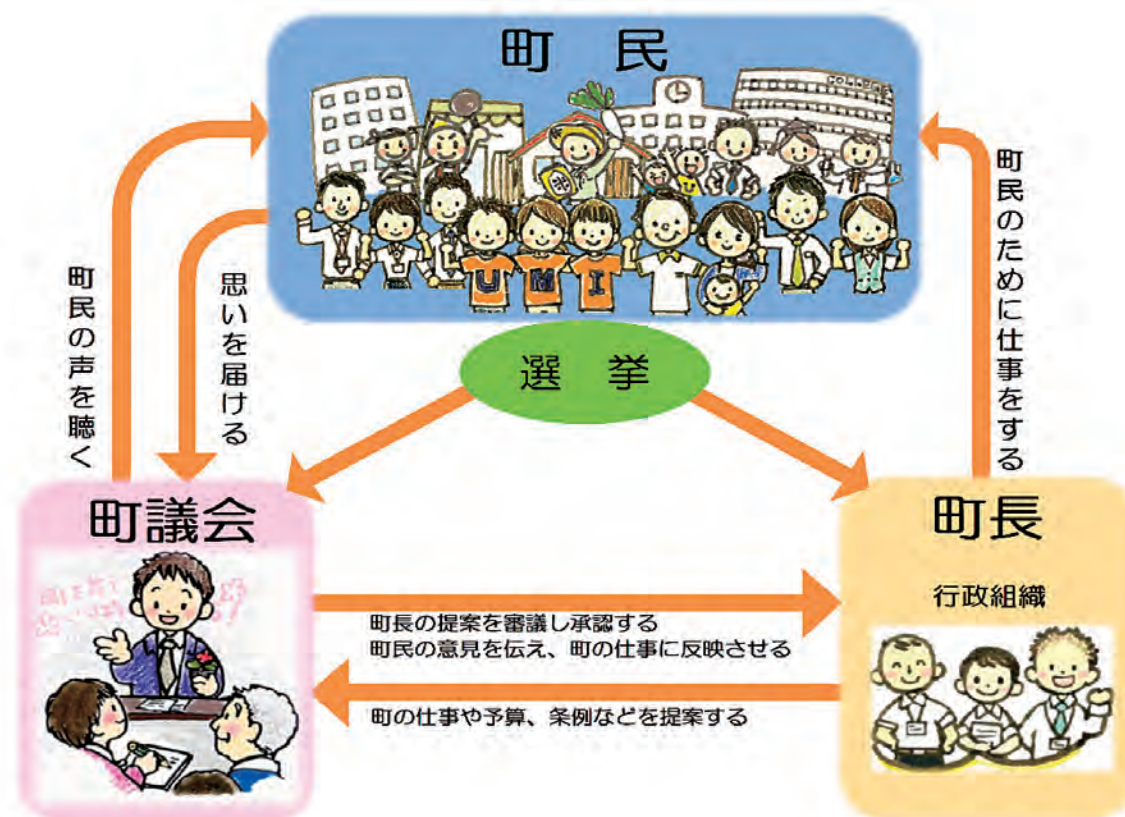


(2) 暮らしの願いと政治の働き

① 町議会の仕組みと働き

宇美町が、もっと住みやすい町になるように、町民みんなで意見を出し合って、考えることが大切です。しかし、実際にみんなで（町の人口は約3万7千人、18歳以上は約3万人）話し合うのは難しいので、代表者が話し合いをします。この代表者を選ぶことを「選挙」といい、選ばれた人を「町議会議員」といいます。宇美町の町議会議員は、12人で、4年ごとに選挙で選ばれます。

選挙で選ばれた町議会議員と町長や町役場の職員が集まって話し合いをするところが「町議会」です。



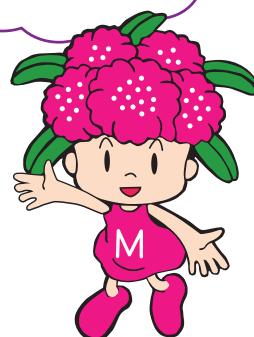
●町議会の仕組み

町議会議員全員で町のルール(条例)やお金の使い方(予算)などを決める会議を「本会議」といいます。

本会議は、3月・6月・9月・12月の年4回開かれる定例会と必要な時に開かれる臨時会があります。

このほかに、町議会議員がグループに分かれて、町の仕事の内容を専門的に調べたり話し合ったりする「委員会」があります。

町議会の仕組みや働きが、自分たちの生活にどのように関わっているのか調べてみましょう。



●開かれた議会

町議会議員は、わたしたち町民の代表者です。町民の意見が議会の意思決定にどのように反映されたかを知ることがとても大切です。また、本会議を公開することは、法律にも定められています。

町議会の本会議では、どのような話し合いが行われているか、実際に見たり聞いたりすることができます。これを傍聴といいます。

本会議がある日に議場内にある傍聴席で、傍聴することができますが、インターネットでもライブ中継、録画配信で見たり聞いたりすることができます。



議場の様子



録画配信には字幕がついています

また、より多くの町民のみなさんに、議会の活動や話し合いの様子を知ってもらうため、議会だよりを年4回(5月・8月・11月・2月)発行しています。



町議会の本会議の様子を見てみよう。



本会議で注目したことを町民のみなさんにお知らせしているページ

宇美町の予算

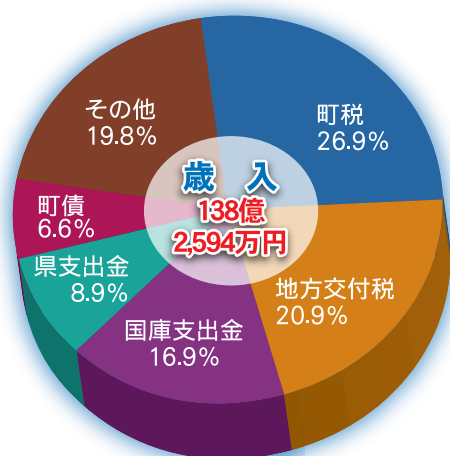
町の仕事は、学校や道路の維持など日々の生活にかかせないことや、急な災害に備えることなど、町民の安全・安心な暮らしを支えています。

歳入はお家の人の給料、歳出は家で使うお金と考えるといいね。



そして、その仕事にお金がどのくらい必要なのか、税金などの収入がどのくらいあるのかを積み上げたものが町の予算です。

歳入
(宇美町に入ってくるお金)



町税 約37億円
町民のみなさんが納める税金です。

地方交付税 約29億円
国から町へ交付されているお金です。

国庫支出金 約23億円
国が使い道を指定して町へ支払うお金です。

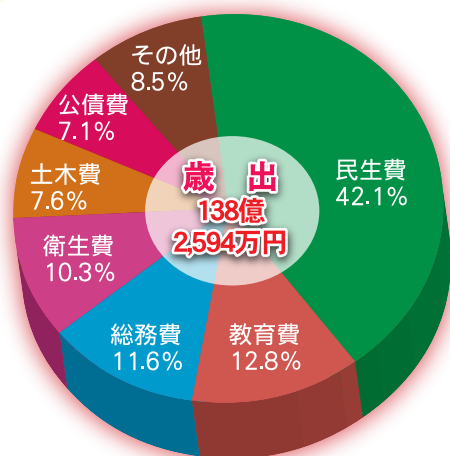
県支出金 約12億円
福岡県が使い道を指定して町へ支払うお金です。

町債 約9億円
町が国や銀行などから長期に借入るお金です。

その他 約28億円
貯金からおろすお金や施設の使用料、証明書の発行手数料などです。

**令和6年度
当初予算**

歳出
(宇美町のお金の使いみち)



民生費 約58億円
福祉関係のお金です。保育所、介護保険、障害者福祉などに使われます。

教育費 約18億円
小・中学校の運営や図書館・社会体育施設などに使われます。

総務費 約16億円
役場の運営関係のお金です。建物管理、コンピューター管理などに使われます。

衛生費 約14億円
保健・環境関係のお金です。予防接種、健康診断、ごみ処理などに使われます。

土木費 約11億円
道路、橋、公園、下水道の整備、管理などに使われます。

その他 約21億円
公債費、消防費、農林水産費、議会費などがあります。



宇美町役場



窓口で対応している町役場の職員



測量する町役場の職員

②町役場の仕組みと働き

予算や条例が町議会で決定したら、早速実行に移されます。その具体的な内容を計画し、実際に仕事を進めるところが、町長を中心とする町役場です。

宇美町役場には、わたしたち町民の豊かな生活を実現するための課（局）があって、仕事を分担して協力しながら働いています。

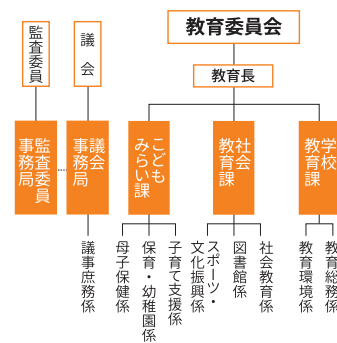
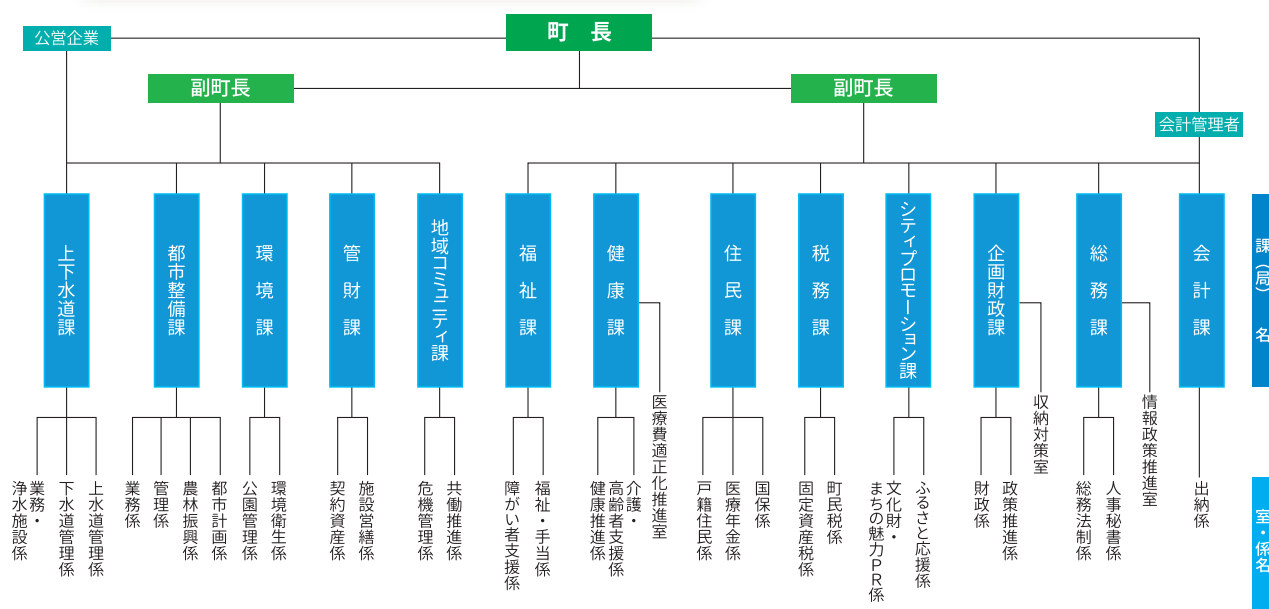
職員の数は約200人で、窓口で相談にのったり、書類作成の事務をしたり、実際に町をまわったりしながら、住みよいまちになるよう仕事をしています。

宇美町役場のようすを見学しよう。どんな仕事をしているのかインタビューするのもいいね。

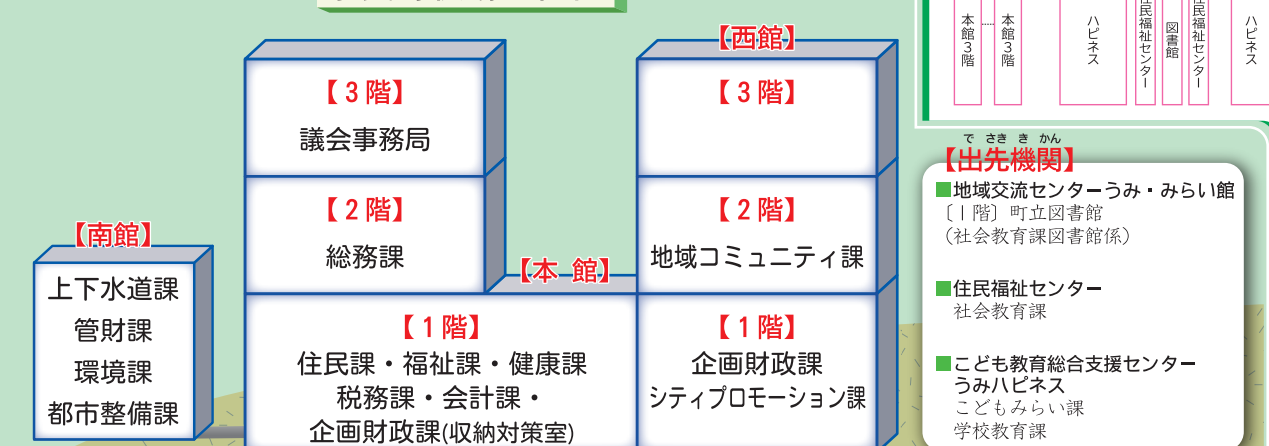
- ①事前連絡
- ②インタビューの前に
- ・何のために
 - ・誰に
 - ・どんなことを、たずねるのかメモしておきましょう。
- ③インタビューするときは
- ・自己紹介
 - ・インタビューの目的
 - ・たずねたいこと
 - ・資料等を借りられるか
 - ・お礼
- ◇ 写真を撮ったり、録音したりするときは、相手に許可をもらってからにしましょう。

いろいろな課(局)や係

— 令和5年7月1日施行 —



宇美町役場配置図



広報「うみ」



こうした町役場の取り組みは、月一回各家庭に配られる“広報うみ”で詳しく紹介されています。事業報告だけでなく、特集コーナーや情報コーナーなど、“広報うみ”には町民に役立つ情報がたくさん載っています。すべての年代の人たちが読んで楽しく分かりやすい誌面作りを工夫しています。

また、町役場の取り組みや情報は宇美町ホームページでも紹介されており、インターネットを通じて町外の人々も宇美町のことを知ることができます。

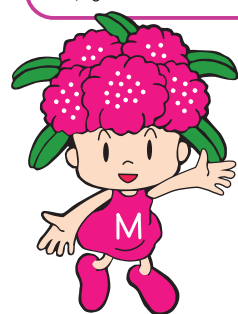


「広報うみ」には身近で詳しい情報がたくさんつまっているよ。みんなも手に取って読んでみましょう。



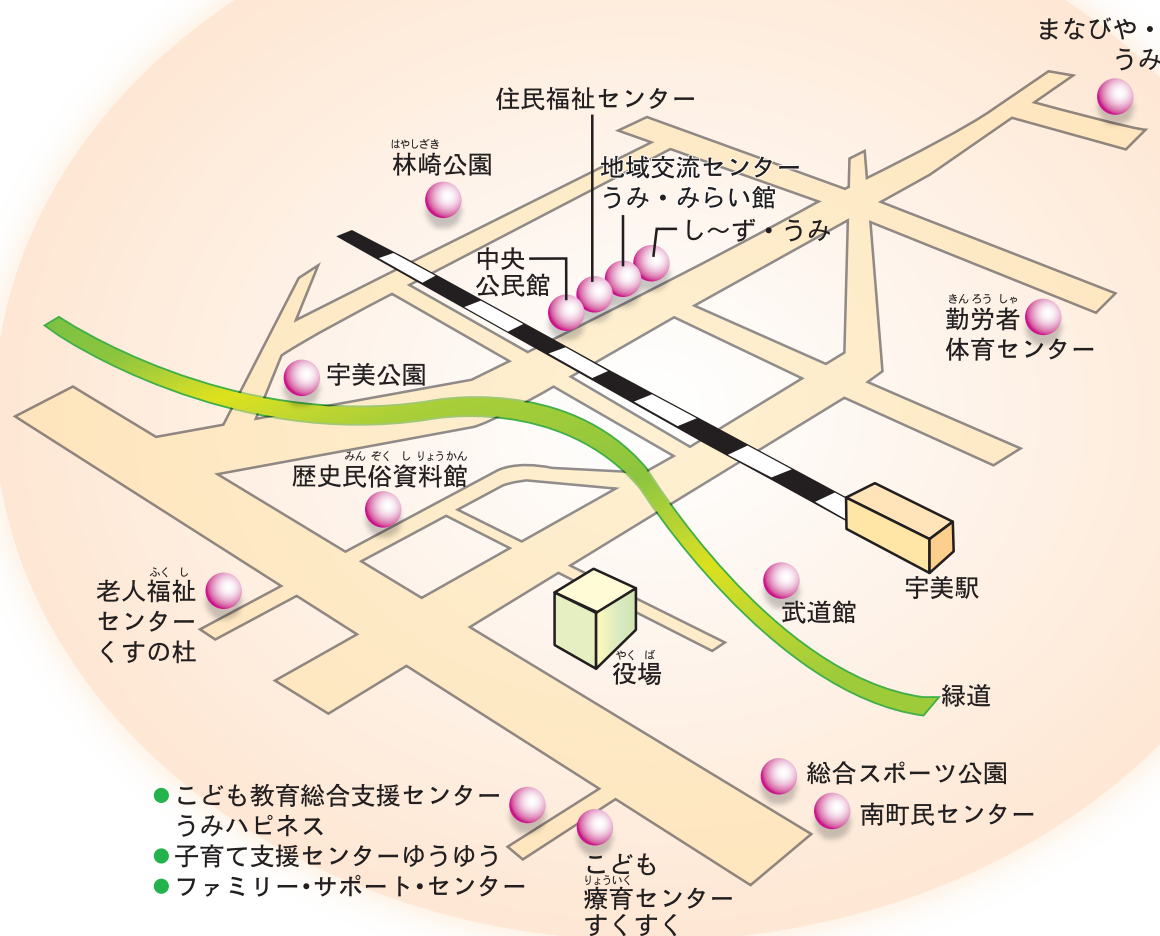
③宇美町の公共施設

宇美町の公共施設を利用した経験をもとに、施設や利用者の方について話し合いました。



宇美町には、町民の願いによって建てられた多くの公共施設があります。公園や公民館、資料館、体育館などわたしたちにとって身近な施設ばかりです。そこでは、さまざまな文化活動や体育活動などが行われ、町民の交流の場となっています。

宇美町のおもな公共施設



地域交流センターうみ・みらい館

くらしの中で本に親しんだり、研修を行ったりする場として2007年（平成19年）に建設されました。図書館があり、たくさんの町民が利用しています。



住民福祉センター

町民の福利・厚生を目的として1977年（昭和52年）に、建設されました。バレーボールなどのスポーツ活動やかるとなどの文化活動が行われています。



中央公民館

町民の身近な学習・交流の場として1979年（昭和54年）に建設されました。たくさんの方々が集まる講演会や文化のつどいなどが開かれています。



こども教育総合支援センター うみハピネス

町民の保健と福祉の中心施設として1997年（平成9年）に建設されました。2020年（令和2年）より「こども教育総合支援センター」と改称され、子育てと教育の拠点施設となりました。

特に、「中央公民館」「住民福祉センター」「うみ・みらい館」「し〜ず・うみ」が並ぶゾーンを「ふみの里まなびの森」とよび、それぞれの施設が連携しながら町民のみなさんの学習や活動をサポートしています。

(3) 宇美町のまちづくり計画

宇美町では住みよいまちづくりのため、これまで7次の総合計画をつくり、その実現を目指してきました。

・第7次宇美町総合計画

(令和5年度～令和12年度)

近年の少子高齢化の急速な進行や町民が抱える課題の多様化、地域の活性化など取り組まなければならない課題が増えています。

宇美町では、自分たちの住んでいるまちを誇りに思い、町内外すべての人が「このまちが、いい。」と思えるまちづくりを進めています。

少子化対策に力を入れ、「子どもは、宇美町の宝」をキーワードに「子育てのまちうみ」を実現するための取り組みを強化しています。



(4) 周りの市や町との協力

交通手段等の発達により、通勤、通学をはじめ、文化・スポーツ交流など町民の生活行動範囲は拡大し、そのライフスタイルは多様化しています。住民が求める行政サービスも多様化、高度化して、まちづくりにおいて難しいことが増えてきました。そこで、「一つの町だけではできないことも、たくさんの町が力を合わせればできるようになるのではないか」という考えで、宇美町は他の市や町と共同で取り組みを始めました。

現在では、医療、保険、ごみ処理、上下水道、消防、防犯など様々な分野で周りの市や町と協力しています。

周りの市や町とどんな協力をしているのか調べてみましょう。



宇美町が周りの市町と協力して行っている主な事業



一ヶ所に集中して診療することで、急な手当が可能です。



もえるごみを大量に処理して、固形燃料をつくっています。



博多湾や多々良川の水質保全のため効率的に処理しています。



福岡地区の水不足を補うため筑後川の水を利用しています。



宇美八幡宮



光正寺古墳



宇美町消防団

(5) まちづくりの将来像

わたしたちの宇美町は、かつては炭^{たん}鉱^{こう}の町として栄^{さか}えました。炭鉱閉山後は、福岡市のベッドタウンとして発展^{はつてん}し、豊かな自然を大切に守りながら住宅地^{ちゅうたく}の開発^{かい}や公共施設^{こうきょう}・道路整備^{どうろせいび}などのまちづくりをすすめてきました。

しかし、少子高齢化^{しょうしこうれいか}や情報化^{じょうほうか}が進み、社会が大きく変化^{へんか}したため、新しいまちづくりのかたち^{かたち}が求められています。

今後は、町民^{ちやうみん}、行政^{ぎやうせい}、企業^{きぎやう}などが共に力^{ちから}を合わせて、地域の課題^{かだい}を解決^{かいけつ}していくことが必要^{ひつよう}です。

新しいまちづくりに向けて、どんなことを大切にしたり、工夫したりしていけばいいのかな。



米づくり体験(小学校)



職場体験学習(中学校)



子育てサロン



奉納相撲

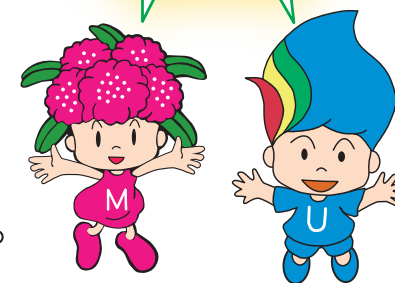


グラウンドゴルフ

宇美町は、自然・歴史・文化・人材などの「輝く資源」を生かして、わたしたちの町が活力あふれる豊かな町、「このまちが、いい。」と誇りに思える町となるように、まちづくりを進めていきます。

よりよい宇美町にするためにどんなことが必要か、友達のために、家族のために、みんなのためにできることがないか、一緒に考えていきましょう。

よりよい宇美町にするために、これからどんなことが必要か、みんなで話し合ってみましょう。



①地域コミュニティの活性化

宇美町では、地域みんなで力を合わせて活動する新たな仕組みとして、小学校区を単位とした地域コミュニティの推進に取り組んでいます。

地域コミュニティとは、地域をよりよくすることを目的に結成された集団、組織のことで、地域に暮らす人たちの交流の場であり、その活動を活性化させることにより、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という自治意識が高まり、ふるさとへの愛着、誇りを持つことにつながります。

なぜ地域コミュニティが必要になったのか、みんな考えてみよう。



桜原小校区コミュニティ 通学路の見守り



井野小校区コミュニティ 防災訓練

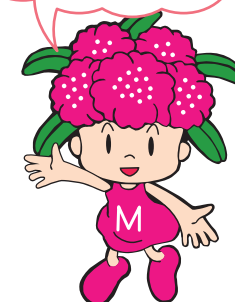
また、町民同士の信頼関係やつながりが生まれることで、防災や防犯対策などにもつながり、いざという時に助け合うことができます。

宇美町では、「自助」「互助」「共助」「公助」のバランスの取れた共働によるまちづくりをめざしています。

各小学校区に組織されたコミュニティ運営協議会では、それぞれの地域の実態に合わせて、様々な活動を行っています。

また、各小学校区コミュニティ運営協議会の役員が定期的に集まって、役場の担当課等と、まちづくりについての話し合いを行っています。

自分たちの校区を住みよい町にするためには、どんな取り組みが必要か考えてみよう。



②国際交流

今、日本には多くの外国人が観光で、おとずれたり、住んだり、働いています。

わたしたちの宇美町にも、約400人の外国人の方が住み、さまざまな職場で働いています。このような中、ますます外国のことや人を知り、お互いを理解することが大切になってきます。

宇美町では、国際理解をはかるためにいろいろな取り組みをしています。

(1) 町の取り組み

宇美町役場の公式ホームページは、外国の人も利用できるように、英語・中国語・韓国語に対応できるようになっています。

また、役場の窓口も英語・中国語・韓国語の案内が設置されています。

(2) ボランティア交流

わたしたちの周りにも、交流を行っている民間団体があります。

①フレンドシップ英語

実用的な英会話を学び、身につけた



英語のコミュニケーション力を活かして、海外の方とのコミュニケーションを支援することや宇美町の案内ができるように活動しています。

月2回の定例の学習会で、簡単な英会話を学んだり、宇美町を訪れた外国の方を宇美八幡宮や光正寺古墳に案内したりもしました。宇美町観光パンフレットの英語版を作成しています。

(6) 町制施行100周年を迎えて

宇美町は2020年、糟屋郡で最初に“町”となって100年を迎えました。この記念すべき大きな節目を町民あげてお祝いするとともに、大切にしてきた歴史・文化など町の魅力を再認識・再発見し、それらを次世代や町内外に発信することで更なる町の発展につなげようと様々な記念事業が企画されました。

この1つとして、シンボルマーク・キャッチフレーズを募集したところ、全国から合計721件の応募があり、宇美町の小学生もたくさん参加しました。採用されたシンボルマーク・キャッチフレーズは横断幕やのぼり旗、ポスターに掲載され町内の至るところに掲示されました。

新型コロナウイルス感染拡大により予定されていた半数以上の記念事業や記念式典が中止になりましたが、2020年10月20日には宇美八幡宮特設ステージで、町政施行100周年を記念するバースデーイベント「100年分のありがとうを未来へ」を行いました。

当日は、メインイベントとして、“バルーンリリース”を行いました。メイン会場と町内8小中学校をオンラインで結び、宇美八幡宮保育園児、イベント参加者、各小中学校の運動場に集まった子どもたちが「私の夢や未来の宇美町」などを書いたカードや花の種を付けた約

2,500個の風船を一斉に空に放ちました。

町では、「『このまちが、いい。』わたしたちの誇り宇美」を将来像として、「このまちが、いい。」と選ばれるまちづくりを町民と一緒に取り組んでいきます。



宇美小学校



宇美東小学校



原田小学校



桜原小学校



井野小学校

